

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100078		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム さざんか園		
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲3475-1		
自己評価作成日	平成25年10月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成25年11月22日	外部評価確定日	平成26年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・デイサービスと小規模多機能とは通路を設けているので、自由に介護者と共に出入りされている。外に出ている方があれば、デイ職員、小規模職員が気付き、異常があればホームに報告が入る等の共有状況が作られている。</p> <p>・デイサービスの音楽療法、ゲーム等の参加、ボランティア活動の見学、園児との交流、小規模多機能でのカラオケ大会(毎週水曜日)に参加させてもらい、利用者同士の交流など楽しみも多く職員のレベル向上のアイディアを貰ってきている。</p> <p>・利用者さんが亡くなられた後も同部落の家族様とは交流が続き地域交流の手助けや運営推進会議の委員、園のイベント等の参加もされ家族様との信頼関係が出来ている。</p> <p>・他の施設等から来られた利用者様が向精神薬を服用されている場合は医療関係者と家族様との話し合いを持ち、なるべく薬に頼らない支援を職員全員で考え、研究発表等にも繋げている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>高速道の入り口の国道385号線に面し、北に脊振山系を臨み、南に川原川(田手川上流)のせせらぎが聞こえる自然環境に恵まれた立地条件の中に有り、広い敷地には、小規模多機能事業所とデイサービス事業所が併設されている。小規模多機能事業所とはウッドデッキのバルコニーで行き来が出来、入居者には閉塞感がなく、各居室からもバルコニー等自由に入出入り出来るフラットな設えとなっている。三事業所との交流も密で、音楽療法、カラオケ会、ゲーム大会等連携を取り、職員の介護レベルアップに努力している。又、畑には季節の野菜や花を入居者に教えてもらい育て、食材に使用したり、花を園内に飾り、心和む雰囲気となっている。防災では、行政からの警報器を敷地内に設置しており、週1回サイレンが吹鳴され、地域を含めた安全を確認している。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼の時に事務所に掲げている理念を唱和し職員全員全体で共有できるようにしている。又理念の説明、確認を行っており、理念を理解するよう努めている。	運営理念を毎日朝礼時に全員で唱和して、職員間で、意義を理解し共有と確認が出来る取組がなされており、日々の支援に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物や散髪などの地域との付き合いを心がけている。また自治会での活動の参加や子供クラブとの交流会、施設のイベントの回覧板まわしの呼びかけをしている。	自治会に加入し、地区総会や公民館清掃・子供クラブの行事・クリーンデイ等へ利用者と職員で積極的に参加している。施設のイベントの案内も回覧して戴き参加の呼びかけをしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のクリーンデイ参加、防火訓練など協力して取り組んでいる。また家族会や新年会、認知症介護についての体験談の講演や劇などを通じて理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回会議を実施している。各事業所の近況報告や地域との関わりでの協力を得ている。今回災害、火災の訓練について協力が得られた。	運営推進会議を三事業所合同で2か月に1回開催し、利用者の日頃の状況や行事の報告、職員の動向等を説明し、施設の改善や職員の質の向上等の意見を受け、サービス向上に活かしている。運営委員の意見により、町から周辺整備がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議の中に包括センターの職員さんが参加されケアサービスの状況把握をされている。利用者様の中に生活保護の方が居られるので支援の状態を把握されている。	地域包括支援センターから2か月に1回の運営推進会議への出席があり、ケアサービスの状況の把握もされている。又、中部広域連合や県社協の研修会にも職員を積極的に参加させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はせず、外出願望の利用者様に付き添い、散歩対応を行っている。利用者様の医療行為時に必要な場合は家族の同意をとっている。 居室での身体拘束は転倒の可能性の場合ベッド柵を用いている。	全ての職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束はしていない。日中の施錠もされず、利用者の自室からは、バルコニーから庭へ自由に行き来が出来、見守りによる支援を徹底している。利用者の体調の必要に応じベットサイドにセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会での議題で全員でいしきを持たせ共有している。また各事業所で独自のマニュアル作成をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回の全体勉強会のカリキュラムに年1回生活支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了時は運営事項、契約書の説明、施設紹介をし納得した上でやっている。契約終了時は家族と担当者会議を開き今後についての方針決めを行ったうえで退所となる。運営事項の変更がある場合は書面にて説明、許可をもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先の目安箱の設置、また訪問時サービス会議開き意見を聞き反映に努めている。	家族会が組織されており、家族の要望や意見を汲み取る仕組みが作られている。又、日頃の面会時や行事開催時にも多数の家族の参加があり、イベント内容等にもアイデアを出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス時に代表者、管理者も集まり意見の交換の場を設けている。また常時スタッフが主任に意見を伝え代表者会議にて提案してもらえる体制がある。	月1回のカンファレンスや三事業所の全体勉強会で職員の要望や意見を聞いて、業務運営に反映させている。又、常時スタッフから主任へ、意見を伝え、代表者会議において提案する体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績はボーナス時の人事考課制度での査定、処遇改善給付金の振り分けに反映される。また資格を取った際は資格手当の給付、互助会費からの祝い金が配当されスタッフの向上心、テンション維持を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体勉強会の実施、また研修の知らせが来ると毎回2～3名ほど全事業所から選出され参加できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修やその他の研修に参加した際、同職種の人達と交流を図る機会はある。代表者はそういう機会を設けられるよう研修の参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するに当たって管理者、ケアマネージャー等で本人及び家族から不安な要望等を聞き、必要とされる支援を把握して安心して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用するに当たって管理者やケアマネージャー等が家族と話し合い不安に思っている事を等に耳を傾け職員と家族との信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にサービスで相談できる体制が出来ており本人と家族の要望に応じた支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや準備、後方付け等、個々の能力に応じて参加して頂き意欲向上に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回家族会を実施し、利用者と家族の交流を大事にしている。毎月送付している園だよりにより近況報告の欄があり、そこに職員がご本人様の状況を家族にコメントしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	クリーンデイやショッピングセンターの利用等地域との交流を多く持つようにしている。美容院等は地元の所に足を運び家族にお願いするように支援している。	毎日、近所のショッピングセンターへ買い物の同行やデイサービスへの参加により、馴染みの人との交流が途切れる事のないように支援している。又、馴染みの美容院や理髪店の利用を家族にお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切に、食卓のテーブルの配置やソファの位置に配慮する等、孤立が無い様に職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	随時、担当者会議を開催また面会時に情報共有を行うようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを最初また途中で行い情報収集に努めている。	毎日の日課について、朝礼時に入居者の希望や意向を尊重して一日の行事予定を立てて支援している。意向の把握の把握が困難な入居者には家族を通じて希望を聞いてケアに反映させている。週1回カラオケと三施設合同のレクリエーション・音楽療法に参加している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族よりアセスメントを取り職員皆で共有して行うことで質の向上に努めている。記録も詳細に行うようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの実施、記録の実施で把握出来ている。カンファレンスでも実践報告を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員、利用者家族に聞き取りの元、随時行っている。	介護計画は3ヶ月毎に見直し、本人・家族・担当・関係者と話し合い、モニタリングを実施し、変更あれば全員で見直し、利用者本位の支援を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は確実に行っている。記録の中身を確認し合い現場に反映は確実に出来ていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスにて取り組みを話し合い、改善の為に話し合い実行は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のクリーンデイにも参加し協力を図る。又、お盆になると近くのお寺に行きお参りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望を重視して、医療機関を決めている。また、月4回の神埼訪問看護婦による健康チェックをして頂き、利用者様の特変時の対応など連携を図り、ケース記録をスタッフ全員で取り組みドクターに報告し連携を図っている。	受診は、本人や家族等の希望を大切に、これまでのかかりつけ医への受診を支援している。週1回の訪問看護ケアを受けており、緊急事等には協力医院の24時間体制が確立されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケア記録をつけて日常の些細な変化や気付きノートについては気づきノートを記入したりし週2回の訪問看護師に情報報告を行っている。また他の職員との共有を図り定期的に行っているカンファ・勉強会などで情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、管理者及び施設長が行き病院関係者から状況説明を受けている。職員もお見舞いに行き病院スタッフと情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院と家族との連携で重度化した時より同意書を取りケアプランの見直しを図っている。会議の時では施設長・主任・ケアマネージャー・担当者が同席している。家族の意向はカンファレンス時に他職員と情報共有を図っている。	利用契約時に重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族等と話し合いをしている。又、重度化した場合は再確認を行い、事業所の出来得る支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の対応については、全員が消防署にて毎年講習を受けて実践力を見につけるよう努めている。又勉強会で看護師により誤嚥対策等の実践練習を図っている。また、カンファレンス等で技術や知識の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の共に、年3回の火災訓練及び夜間想定で避難訓練・防災訓練を利用者様と共に職員全員参加で行っている。また、地域住民の方や地域消防団の協力もあり多くの方が参加し実施することが出来た。	消防署の立会いの下に年3回の火災予防・避難訓練・夜間想定での避難訓練を実施している。又、地域消防団の訓練を事業所でも実施してもらい近隣住民の協力を得て、避難の実践をしている。避難場所の点灯も町で計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに自尊心を損ねないように声掛けをして、尊厳を持って対応している。また全体勉強会にてホスピタリティコミュニケーションを学び職員のレベル向上に努めている。	利用者の自尊心や誇りを損ねないように声掛けをして対応し、支援している。又、全体勉強会で接遇研修(ホスピタリティコミュニケーション)を学び、職員の介護レベルアップに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1つ1つの行動に対して常に聴く姿勢を心がけ自己決定を尊重している。食事にしても毎日何を食べたいか聴いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の朝礼時お茶を飲みながら新聞の説明をしたり、1日の日程の説明をしている、日程には希望をきき出来るだけの希望に添っている。3時のお茶の時間は入浴希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物ドライブの時洋服屋に寄り利用者様本人に選んでもらい購入したりしている。また定期的に地域のなじみの美容室に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝礼時に何が食べたいかきき、希望の食事を利用者様と一緒に準備したり盛り付けや片付けを行っている。	利用者にその日の希望を聞いてメニューを決定し、食材の買い出しを利用者同行(ドライブ兼ね)で実施している。利用者が調理の下ごしらえや盛り付け・後片づけにも参加し易いキッチン設えになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立を参考に、毎日の食事を偏らないように提供している。また個人に合わせた形状(きざみ食・トロミ)で盛り付けをしている。水分は毎日ボードに摂取量を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きとうがいを促し義歯の洗浄やうがいなどの介助を行っている。必要があれば訪問歯科医により週2回来てもらい、口腔状態の清潔保持時に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に排尿を促し排尿テック表を記入、利用することで利用者様の排尿状態(間隔)を把握してその後のトイレ誘導に役立て、紙パンツやオムツ使用の軽減や自立支援に繋がっています。	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄状況を把握し、支援している。日中はトイレ誘導を実施し、紙パンツやオムツの軽減や自立支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を心がけると共に乳製品や水分(お茶ゼリー、ポカリ、ジュース等)を多く摂取して頂き、音楽リハビリや散歩など適度な雲合に取り組んでいます。また排泄チェック表で排便、便の状況を把握しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様が入浴を拒否される時は無理に入浴させたりせず時間を置いて声掛けしたり、清拭や足浴、手浴を行ったり、次の日に入浴して頂いてあげています。又入浴の際はコミュニケーションを取り楽しく入浴して頂く様努めています。	基本的に2日に1回の入浴だが、入浴拒否者には時間を置き声掛けしたり、清拭・足浴・手浴で対応し、翌日に再度声掛けをしている。浴室は安心して利用出来るよう回転盤を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操やリハビリ等しっかり運棒をして頂き安眠できるよう努めている。また利用者様の体調に合わせ、疲れていそうな時、食後など休みたいと訴えのある時は、自室に誘導したりソファ、畳などで休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、朝・昼・夕・頓服と仕分けして事務所に保管し、誰がどんな薬を飲んでいるか看護テック表で理解し、薬は利用者様に手渡し飲んで頂く迄確認し、服薬忘れが無いのか袋のチェックを再度行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材刻み・配膳・洗濯物干し・たたみ食器洗い・拭き等自分の役割を持っていただいています。付きの行事や合同レクリエーション、歌の会など歌ったり体を動かすことドライブなどで気分転換を行っています。又食事などは食べたいものがあれば利用者様の思いに応え準備しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物に行く際ドライブに行ったり、利用者様が外に行きたいときは散歩を行ったり希望に添って実施しています。又弁当を持って外で食べたり、外食などの計画を立て違う楽しみが出来るよう取り組んでいます。地域の清掃活動や行事ごとに出向き地域の方との交流を務めています。	利用者は毎日の食材買出しに同行したり、全員でのドライブでの弁当や外食等での楽しみが出来るよう支援している。又、広い事業所敷地内の周囲に散歩コースがあり、季節の花や野菜等で四季の移ろいを感じる事ができる。田手川堤防も舗装され散歩コースに加わった。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物には利用者同伴で行き選んでもらったり、欲しいものを聞いている。又、家族と一緒に店内を周られ買い物をされる事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や時折手紙は本人に書いてもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コの字型の造りの通路には各所休める場所もあり、中庭には緑を植えている。日よけにはグリーンカーテン等を作りゴーヤや朝顔等を植えている。	コの字型造りの三方は広い廊下で、途中には椅子が置かれ、中庭のプランタの季節の花や野菜を眺める事ができる。ダイニングとキッチンがオープンで見守りが出来る。高床の畳の間は南に面し、日当たりも良く堀コタツにしてあり、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室であり、施錠はしていない。ホールには各種の椅子があり、自由に座ることが出来る。冬場は掘炬燵での会話も楽しめる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に相談し使い慣れた家具や写真等を持参して頂いている。	各居室共明るく、陽射しが良く入り、心地良い居室となっており、全居室洗面が出来る。利用者は使い慣れた家具や写真等持込み居心地良く過ごせる工夫をしている。居室入り口には顔写真と入退出の表示をして一目で所在を分かるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所やフロアのテーブルを使用して広い場所での食事の準備やおやつ作り、又洗濯物たたみなど動きを見ながら安全に生活されている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない